

地球温暖化と

まちづくりについて



問

地球の温暖化対策は待ったなしの現状

のなかにあつて環境省は「地球温暖化対策とまちづくりに関する検討会」の報告書を公表、報告書では都市活動に起因する二酸化炭素の排出量が伸び続けることから、二酸化炭素排出削減に資する「まちづくり」を検討することが急務である。

地方都市における中心市街地の衰退が大きな問題となつて、これに表裏一体するかのよう、市街地の拡大、郊外化の問題が顕在化して、団地住宅や主要施設がまとまつた土地を確保できる郊外へと移転、車社会が進行、道路や上下水道インフラ維持管理費増大、行政コストも膨んで二酸化炭素の削減に逆行している。

幕別町も二酸化炭素を削減するためのエコオフィスプラン、地域省エネルギービジョンを策定、全町的に省エネへの環境作りに取り

「幕別町省エネルギー推進委員会」を設置するため、町民及び事業者より人選等の準備を進めている。

二つ目の「省エネルギー教育の推進」では、省エネ普及指導員1名を委嘱し、出前講座等の啓蒙活動を行い、又、町広報誌に地球温暖化の影響や町民個々ができる対策について掲載した。

三つ目の「省エネルギー行動の確実な実行」では、公募による町民10名の「エコライフ会員」が省エネライフの実践や環境家計簿の作成などを行い、活動結果については、広報を通じて紹介する予定である。

四つ目の「行政の率先的省エネへの取組み」では、役場1階に「省エネナビ」を設置し、エネルギー使用量の把握を行い、役場照明機器へのブルスイツチの導入や、暖房の設定温度の引き下げを実施した結果、二酸化炭素排出量は、年間3.8%、172トン削減した。

五つ目の「省エネ機器等の情報の確実な提供」では、広報を通じ、省エネ型の電化製品などの紹介や、町内の法人に対し「ウォームビズポイント集」を配布するなどの事業を行ってきた。

の法人に対し「ウォームビズポイント集」を配布するなどの事業を行ってきた。

②行政における取組みとして、公用車にハイブリットカーを4台導入した。同じクラスのガソリン車に比べ半分以下の燃料消費であるため、二酸化炭素の排出量は年間5トンの削減となる。

ディーゼルエンジンの公用車1台の燃料を廃食用油から精製したBDF・バイオディーゼル燃料へ転換した。平成20年度からは、町で所有するトラックの燃料についてもBDFに転換する予定である。

太陽光の利用については、札内さかえ保育所に太陽光パネルを設置した。

町独自の施策として、個人住宅の太陽光発電パネル設置に対し補助を行い、太陽光の利用を振興している。情報提供活動として、平成18年に百年記念ホールでペレットストーブと新エネ

に関するパネル展示会を開催した。

民間における導入状況等は、BDFの原料となる廃

食用油の回収活動に、町内の6団体が取り組んでいる。町民が一体となった地球温暖化防止対策が展開されるよう情報提供と啓蒙活動に努めたい。

③地域のバイオマスの総合的かつ効果的な利活用を図るため市町村が策定するバイオマス構想については、本町では、バイオマスに関する賦存量や利用方法などの基本方針は「新エネルギービジョン」の中に大部分網羅されており、それに基づいて取組みを進めていき、バイオマスプラントなどの具体的な施設の建設計画がなされた段階で構想の策定を検討したい。

町長

①省エネルギービジョンでは、実施すべき5つの重点施策を掲げ取り組んでいる。

一つ目の「全町的な省エネルギー推進体制の確立」では、町職員による「地球温暖化対策庁内推進委員」の設置、本町における省エネ推進の中心的役割を担う

②新エネルギービジョンの取組みに関する導入状況と成果について。

③家畜糞尿や生ゴミ、汚泥などから出るバイオガス利用のバイオマスタウン構想への考えは。

一つ目の「全町的な省エネルギー推進体制の確立」では、町職員による「地球温暖化対策庁内推進委員」の設置、本町における省エネ推進の中心的役割を担う